

OPENWAY FT Windows 版 (Ver3.3 Rev50) リリースノート

OPENWAY FT Windows 版 (Ver3.3 Rev50) では、前バージョン (Ver3.3 Rev40) に対して、以下の仕様変更・改善、および、不具合対応を行っています。

仕様変更・改善

【1】自動リカバリの手動起動でもリトライ回数の指定可

前バージョンまでは、画面にて、自動リカバリのチェックを外した場合、リトライ回数の指定が行えず、無制限となっていました。回数の指定が可能となりました。

【2】多重度制御機能

設定ファイルによる制御にて、多重度制御機能の不使用が選択可能となりました。

【3】大文字小文字同一認識

従来、OPENWAY FT では、ホスト名並びにファイル識別名の大文字小文字は別認識をしておりましたが、同一に認識するよう仕様を変更いたしました。

【4】多重度制御機能のダンプ出力機能

多重度制御において問題が生じた際に、問題の追跡が行いやすいよう多重度制御ファイルの退避を行う機能を追加いたしました。これにより、問題の解析が行いやすくなりました。

不具合対応

【1】多重度制御機能

多重度制御にて、ステータス追越し処理時に次のジョブが起動されないことがある不具合を修正しました。また、これに伴い、多重度制御機能の全面見直しを行い、かつ、一時ファイルであるスケジュールファイルのフォーマットを変更しております。これにより、多重度機能の脆弱性が改善されました。

【2】エラーメッセージの見直し

これまでの OPENWAY FT バージョンアップの中で、追加されてきたエラーメッセージなどを、UNIX 版と合わせて見直しを行い、不要なメッセージを削りました。あわせて、仕様手引書、ヘルプファイルの見直しを実施しております。

【3】自動リカバリのリトライ回数超過メッセージ出力タイミングの変更

自動リカバリ処理に、リトライ回数を有限で設定しているケースにおいて、超過メッセージが出てくるタイミングが遅い問題を修正いたしました。

【4】送信 09 ステータスで「ジョブの再起動」が選択可能に

OPENWAY FT 管理画面にて、送信側のファイル識別のステータスが「09」の時に「ジョブの再起動」が選択できない不具合を修正いたしました。

【5】自動リカバリ処理のバッチ呼出し修正

OPENWAY FT v3.3 以前のバージョンでは、自動リカバリ処理にて、自動リカバリ失敗時にユーザ作成ジョブの呼出しを追加できるカスタマイズ用のバッチファイルが提供されておりましたが、そのバッチファイルのデフォルトでの提供が既になくなっているため、ファイルの呼び出しを行わないように、修正いたしました。

【6】ソケットのメモリエラー

ソケット異常等、特定のケースでメモリエラーにつながる可能性のある不具合を修正いたしました。

【7】エラーコード取得エラー

ソケットの初期化の失敗時にエラーコードがログに出力されない不具合を修正いたしました。